



SDGsは豊かな地球を守るため、って大きなテーマでなんだか難しい…
けれどSDGsは経営課題を解決してくれる大切なキーワードなんです！
近くの会社をのぞいて見れば、あれ、これもSDGsなんだ！
小さなことでもまずはひとつ。SDGs、始めてみませんか？

株式会社藤橋商店 > 循環型とスマート農業の取り組みで、未来の「食」を支えます



所在地 姫路市相野115番地 TEL 079-268-9535
代表者 代表取締役 藤橋 拓志 HP <https://fsm.jp/>
社員数 116名

✓ 地域の困りごとに対応し、持続可能な社会の実現に貢献

当社は1915年に創業しました。主力事業は養鶏場の運営、飼料・鶏卵の販売、農業、飲食店やスーパーマーケットの運営などです。「笑顔と喜びと活気に溢れ」の経営理念のもと、地域社会の困りごとを解決することを目指してきました。高齢化で耕作が出来なくなった田畑を受け継ぎ守り、私たちの命の源である「食」を支える農業を活性化させる取り組みはその一例です。

✓ 飼料用米栽培と稲わら事業で「農業畜産連携の循環型事業」を実現

飼料用米は高品質米の栽培には向かない水田でも作付けを行うことが可能です。そこで、鶏糞を使って飼料用米を栽培し、鶏に飼料として与えることで循環型農業を実践しています。きっかけは、地域の農業事業者様から養鶏場で発生する鶏糞を譲って欲しいとの要望でした。養鶏場で発生する鶏糞を廃棄物として処理するには多額の費用負担となりますが、鶏糞を田んぼに返すことで、お米が栽培され、それが鶏の飼料となることで循環していきます。また、かつて稲わらは、水田からの粗飼料供給として、収集されていましたが、近年は作業者の高齢化など



に伴い、収集作業が行われなくなってきました。一方、肥育牛農家にとっては、飼料価格の高騰もあり、需要が高まっています。そこで、当社が稲わらを引き取り、畜産事業者様に供給し、代わりに牛糞を肥料として回収し事業者様に提供することで、農業だけでなく畜産業にも循環の輪を拡大させています。これらは「農業畜産連携の循環型事業の構築」となり、SDGsの実現に他ならないと考えます。

✓ ドローンを活用したスマート農業を展開

現在、契約いただいた水田面積は38ha（甲子園球場10個分）となり、今後も拡大する見通しです。そこで、ドローンを導入して農作業の効率化と負担軽減にも取り組んでいます。耕作地を管理し、その情報を農機具メーカーのスマートアグリシステムにデータ登録し活用し、作業状況や育成状況などの見える化、課題の洗い出し、次の作業や対応につなげています。



✓ 今後の取り組みについて

当社の鶏糞は、乾燥処理だけでなく発酵させ、粒状に成型処理が可能です。そのため、風に飛ばされにくく、臭いの拡散も抑制することが可能となります。この効果により、地域の漁協様から、海水の栄養分を向上させるための相談もあり、今後は漁業にも循環型の拡大を図り、持続可能な食の未来に更に貢献できるように取り組んでいきたいと考えています。